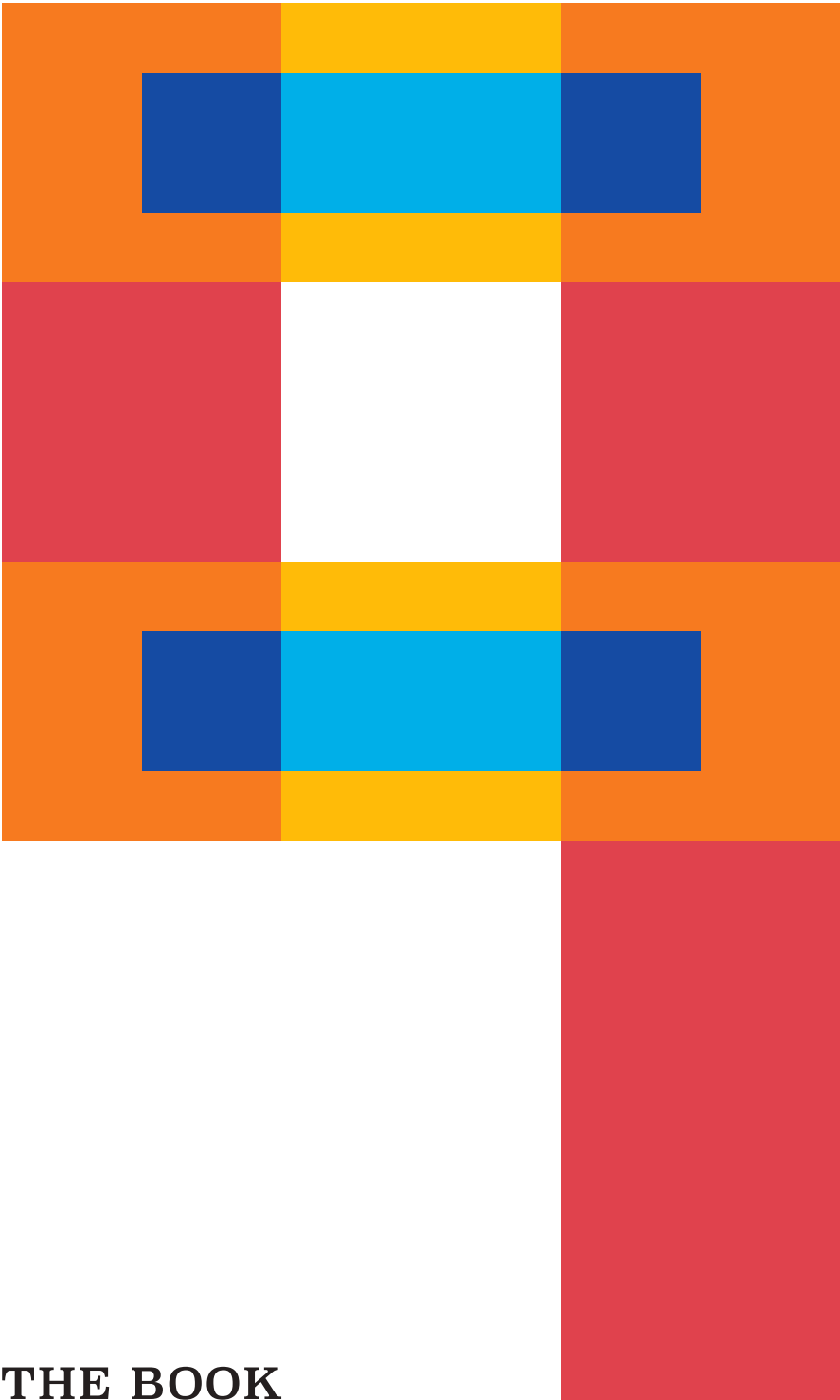




はじめに

ペルシャ絨毯というと「空を飛ぶ」「魔法の」と枕詞の様にフレーズが浮かぶ方は多いのではないのでしょうか。それは使い古されたイメージを表す言葉のようでいて、意外にペルシャ絨毯の本質を指しているかもしれません。古代から現代まで継承されてきたペルシャ絨毯は、はるか昔と現代を繋ぐタイムマシンのような役割をもっていると私は考えています。宇宙や、自然、動物など森羅万象を文様として古の人々が織り込んだペルシャ絨毯は、現代の私たちへのメッセージであり、紡がれた物語。ペルシャ絨毯を通じて私たちは時代を超えた対話をしているのではないのでしょうか。

Book09では、初めてアンティーク絨毯をご紹介します。ソレマニエ・フィニイやミーリー工房の制作にインスピレーションを与えてくれる古典絨毯は、普遍的な美を備え、技術とともに現代のペルシャ絨毯に受け継がれています。ペルシャ絨毯には長い歴史があり、それは絨毯の歴史にとどまらず、文明と人間の成長に深く関わり合っています。アンティーク絨毯と現代工房の絨毯を同時にご覧頂き、よみものとして記す「ペルシャ絨毯の歴史」が新たなペルシャ絨毯の魅力の発見の一助となれば幸いです。

ソレマニエ・フィニイ アミール



- 1 肥沃な三日月地帯と呼ばれる地域
- 2 古代メソポタミアの男性像、カウナケスというパイル織の腰巻きを巻いているのがわかる
- 3 バジリク絨毯と共通する紋様のニネヴェの石のレリーフ
- 4 約 2500 年前に織られたバジリク絨毯（エルミタージュ博物館所蔵）

THE HISTORY OF PERSIAN CARPETS

ペルシャ絨毯の歴史（前編）

ユーラシア大陸（及び北アフリカ）の中央に位置し「肥沃な三日月地帯」と呼ばれるエジプト北東部、レバント、アナトリア南西部、メソポタミア、そしてイラン西部は、世界最古の農耕・牧畜文化が栄えた地域として知られています。人類がアフリカ東部から移動して最初に定住したこの地域は、文明の出現する要素に恵まれ、周辺地域の多種多様な動物や植物、人が集まり、文化が高度に発展しました。

この地域では、すでに新石器時代には中央アジアから西アジア原産の野生羊「アジアムフロン」を狩猟していたことを証明する痕跡が残されています。約9,000年前には、アジアムフロンを家畜化した羊の飼育が始まっていました。人々は春になると、冬の間に抜け落ちた柔らかい毛を集め、フェルトを作っていたと考えられています。硬い石や日干しレンガの床を柔らかくするために、羊毛の弾力性が非常に適していたため、フェルトが敷物として用いられ、やがて平織りの敷物が織られるようになったと推測されます。

シュメール時代（約6,000年前）には、平織りにパイルを縫い付けた腰巻き「カウナケス」が使われるようになり、経糸・緯糸・パイル糸という、今日の絨毯にも通じる構造が生まれました。当時のレリーフや粘土板、石像にもその様子が刻まれており、エジプトの墓からは実物も発掘されています。人類はこの時期に、動物の毛皮と同一ような毛足のある織物を織る技術を獲得したのです。

絨毯を織るための道具も、青銅器時代のものがイラン北部やトルクメニスタン、アゼルバイジャンの古墳から出土しています。現代のペルシャ絨毯と同様に、経糸に緯糸を通し、2本の経糸に左右対称または非対称にパイル糸を結びつける織り方がすでに存在していた可能性が高いことを示しています。

現在確認されている世界最古のパイル織り絨毯は、アルタイ山脈の古墳で発掘された「バシヤダル絨毯」と「バジリク絨毯」です。これらは約2,500年前に遡るアケメネス朝ペルシャの時代のイラン系遊牧騎馬民族であるスキタイ人（サカ族）の墳墓から発見されました。これらがスキタイ人によって織られたものか、あるいはアケメネス朝の王室工房で製作されたものかは明らかではありませんが、デザインのアート様式がペルセポリスやニネヴェのレリーフと一致していることから、現在のイランで製作されたと考える研究者が多くいます。また、バジリクで発見された綴織のライオン柄は、バビロニアのイシュタル門に描かれたライオンと極めて類似しています。



この地が「ペルシア」と呼ばれるようになったのは、この時代にイラン系（アーリア系）民族の中で、パルスア人（ペルシャ人）が地域を統一したことに由来します。現地では古くから「アーリア人の地」という意味で「イーラーン」「アーリアン」「エーラン・シャフル」などと呼ばれていました。

近年の研究では、メディア時代のさらに古い絨毯の断片も発見されており、アイベックス（野生のヤギ）やラクダの柄が織り込まれたパイル織や綴織の存在が明らかになってきています。

イラン高原で育つ羊の毛は非常に耐久性があり、その毛で織られた絨毯は長寿命かつ価値ある資産として扱われるようになりました。絨毯に描かれる文様は、装飾としてだけでなく、魔除けや祈り、信仰を込めた象徴でもあります。絨毯は家の中で寝食を共にし、結婚式や葬儀までも行う生活の中心的存在であり、そのため文様には特別な意味が込められるのです。

ゾロアスター教に先立つイラン系の自然崇拜宗教「ミトラ教」の思想も、絨毯の文様に強く影響を与えています。たとえば、パジリク絨毯やサーサーン朝の国旗「デラフシュ・カビアーニ」に見られる太陽と四元素（大地、火、空、水）のモチーフは、ミトラ教の象徴を反映しています。また、鳥の頭を模した連続文様は、水の女神アナヒタの遣いとされ、雨乞いの意味が込められているとも言われます。

糸杉や生命の樹、ペイズリーなどの植物文様は、永遠の命や繁栄を象徴する神「アモルタート」のシンボルに由来し、現在も多くのペルシャ絨毯で見られる代表的なデザインです。

アレクサンダー大王によるペルシャ征服以降は、ギリシャ文化の影響を受け、アカンサスや蔓草の模様も取り入れられるようになりました。パルティア時代（約2,000年前）には、羊毛や綿に加え、シルクロードを通じて絹も絨毯の素材として使用され始めます。

5 パビロニアのイシュタルの門のレリーフとパジリク絨毯と一緒に出土した綴織
6 メディア時代に織られたと思われる綴織とパイル織絨毯の断片



サーサーン朝時代の代表的な絨毯「ホスローの春」は、絹や金・銀の糸、宝石まで織り込まれた、長さ40メートル・幅27メートルの巨大絨毯でした。四季を表す4枚組の1枚とされ、クテシフォン宮殿には他に夏・秋・冬の絨毯もあったと推定されていますが、アラブの侵略時に戦利品として切り分けられ、現存していません。近年、王室の絨毯とは別に一般の人々が製作したと思われる貴重な絨毯が、ホラーサン地方で出土しました。絨毯の緯糸を割いて再利用したものや、虎や鹿などの動物が織り込まれた絨毯の断片は、庶民が自分たちのために製作していた絨毯として貴重な発見となりました。これら断片からソレマニエ・フィニイ工房が図案を起こし、製作した作品（写真8）を掲載しています。

イスラム帝国時代になると、偶像崇拜の禁止から幾何学文様が発展し、モスクのタイル装飾とともに絨毯の文様にも取り入れられました。また、モンゴルの侵攻を経て中国の磁器や芸術の影響も及び、ペルシャ美術の表現はさらに多様化していきました。

そして、16世紀に始まるサファヴィー朝時代には、宮廷工房を中心に数多くの洗練された絨毯が織られ、ペルシャ絨毯の「黄金時代」とも称される芸術的完成度を誇るようになったのです。

Book 10ではいよいよ世界にその名を知らしめることとなった、ペルシャ絨毯の歴史の中で多くの傑作を生んだ16～17世紀のサファヴィー朝時代から話を始めたいと思います。



7 サーサーン朝ペルシアの国旗デラフシュ・カビアーニ
8 サーサーン朝時代の絨毯の端切れを元に製作されたソレマニエ・フィニイ工房の絨毯 / Gavazn, 211×97cm, Turkmen, Wool



Left



Lida
196×195cm
Heriz
Wool

Right



Shadan
168×100cm
Azerbaijan
Wool
真珠織



Left



Jaleh
260×195cm
Azerbaijan
Wool
真珠織



Right



Arsin
305×216cm
Azerbaijan
Wool
真珠織



Left



Antique 20世紀初頭
212×150cm
Isfahan
Wool

Right



Aseman-o-Zamin
93×69cm
Qashqai
Wool



Left



Sam
154×101cm
Tabriz
Silk

Right



Selena
169×116cm
Heriz
Silk





Left



Fouzieh
226×112cm
Qashqai
Wool

a



Chalipa
89×150cm
Qashqai
Wool

b



Darius
106×150cm
Qashqai
Wool

c



Shir-o-Boteh
105×150cm
Qashqai
Wool



Left



Folora
90x103cm
Azerbaijan
Silk
真珠織



Right



Jila
425x245cm
Tabriz
Wool



Left



Sardar
236×101cm
Bidjar
Wool

Right



Juibar
154×84cm
Tabriz
Wool



Left



Melorin
147×137cm
Azerbaijan
Wool
真珠織



Right



Eil Tai
199×178cm
Azerbaijan
Wool
Sumak



Osan
270x250cm
Heriz
Wool



Left



Jhalin
182×126cm
Azerbaijan
Wool
Sumak



Ronas
30×62cm
Azerbaijan
Silk
Sumak Cushion

Right



Fakhteh
196×136cm
Neyriz
Wool





Left



Armin
63×92cm
Azerbaijan
Wool
真珠織



a



Shakh
114×60cm
Azerbaijan
Silk
Sumak

b



Zehra
121×62cm
Azerbaijan
Silk
Sumak





Left



Tiyara
119×76cm
Azerbaijan
Silk
蔓草織

Right



Epak
161×86cm
Azerbaijan
Silk
蔓草織





Nikan
191×126cm
Azerbaijan
Wool
Sumak



Pazrik
40×40cm
Turkmen
Wool
Cushion

a



b



c



d



a



Tahira
57×54cm
Azerbaijan
Silk
Sumak Cushion

b



Peykan
55×50cm
Azerbaijan
Silk
Sumak Cushion

c

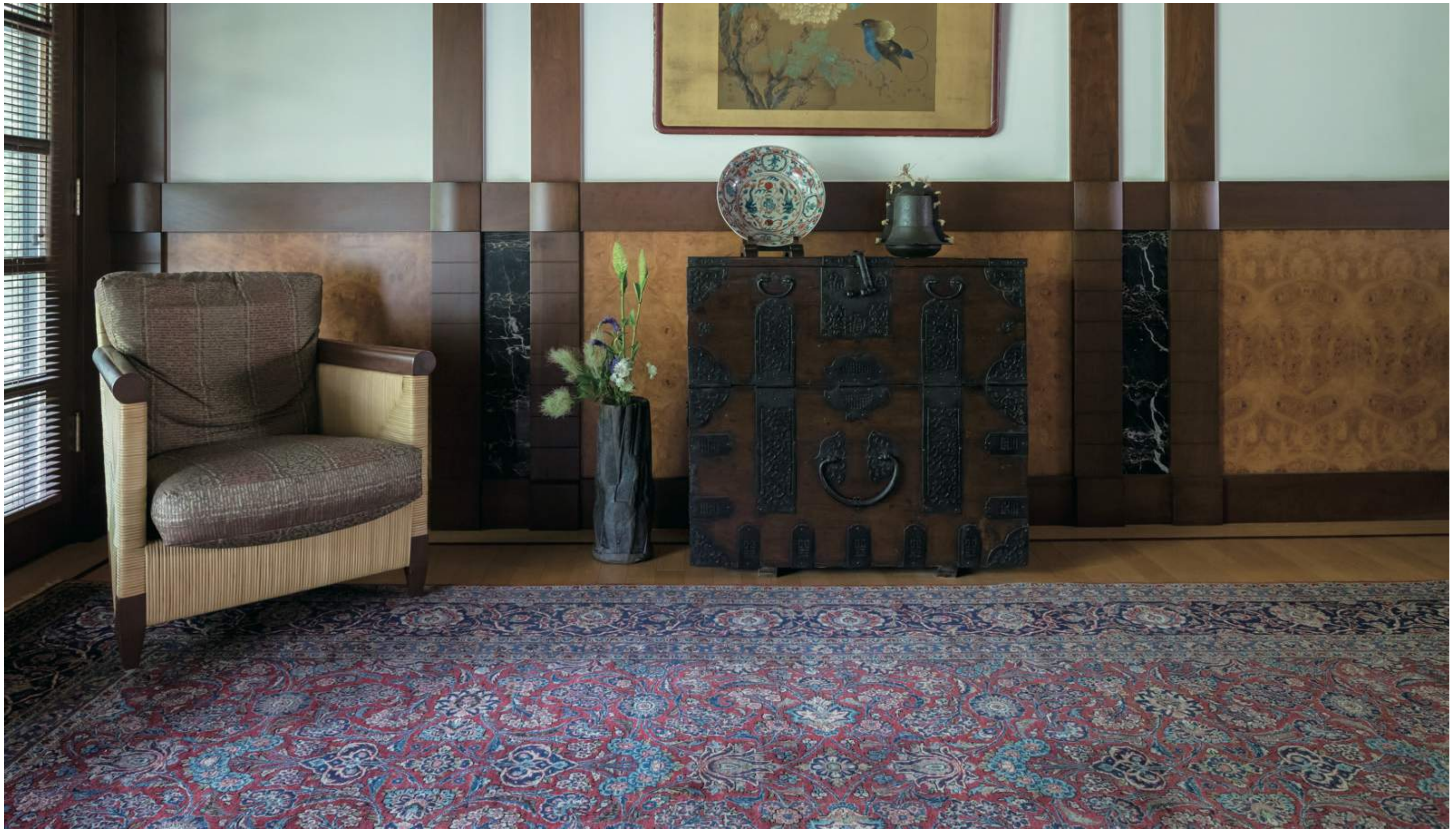


Yusif
57×53cm
Azerbaijan
Silk
Sumak Cushion

d



Zarifa
51×47cm
Azerbaijan
Silk
Sumak Cushion



Antique 20世紀初頭
374×261cm
Kashan or Qazvin
Wool



Left



Darya
250×198cm
Heriz
Wool

Right



Shazdeh
177×125cm
Heriz
Silk



Left



Rita
185×119cm
Kashan
Wool

Right



Soheil
300×82cm
Qashqai
Wool



Left



Sareban
130×103cm
Azerbaijan
Wool
Sumak

Right



Yanar
245×196cm
Azerbaijan
Wool
真珠織



Kochlar
106×52cm
Azerbaijan
Silk
Sumak





Aagyl
159×111cm
Turkmen
Wool



Maglis
153×112cm
Turkmen
Wool



Left



Lilpar
145×84cm
Azerbaijan
Silk
蔓草織

Right



Barin
126×76cm
Azerbaijan
Silk
蔓草織



Left



Ayrokh
222×154cm
Azerbaijan
Wool
Sumak



Right



Zarbal
158×118cm
Azerbaijan
Wool
Sumak



MIRI CREATION AWARDS

1994 ADIL BESIM OSCAR

2006 CARPET DESIGN AWARD by HALI and DOMOTEX



EXHIBITIONS

2004 THE SHOTO MUSEUM OF ART, Tokyo, Japan

2005 OKAYAMA ORIENT MUSEUM, Okayama, Japan

2006 THE MIDDLE EASTERN CULTURE CENTER IN JAPAN, Tokyo, Japan

ANCIENT ORIENT MUSEUM, Tokyo, Japan

2013 ANCIENT ORIENT MUSEUM, Tokyo, Japan

2018 HIMEJI CITY MUSEUM OF ART, Hyogo, Japan



WORLDWIDE COLLECTIONS

THE VICTORIA AND ALBERT MUSEUM, London, UK

THE CARPET MUSEUM OF IRAN

THE ROYAL FAMILY OF NORWAY

THE MOST SACRED TRINITY CHURCH, Nuremberg, Germany

OKAYAMA ORIENT MUSEUM, Okayama, Japan

KYUSHU NATIONAL MUSEUM, Fukuoka, Japan

MINAMI KANNON-YAMA FLOAT and TAKA-YAMA FLOAT of THE GION FESTIVAL, Kyoto, Japan

SOLEYMANIEH FINI EXHIBITIONS & COLLECTIONS

2018 HIMEJI CITY MUSEUM OF ART, Hyogo, Japan

2018 QALISHUYAN (festival of washing carpets), Kashan, Iran

2022 TAKA-YAMA FLOAT of THE GION FESTIVAL, Kyoto, Japan

【制作】

千代田トレーディング株式会社

東京都港区白金台 5-3-7 くりはらビル 101

Tel 03 3440 9391

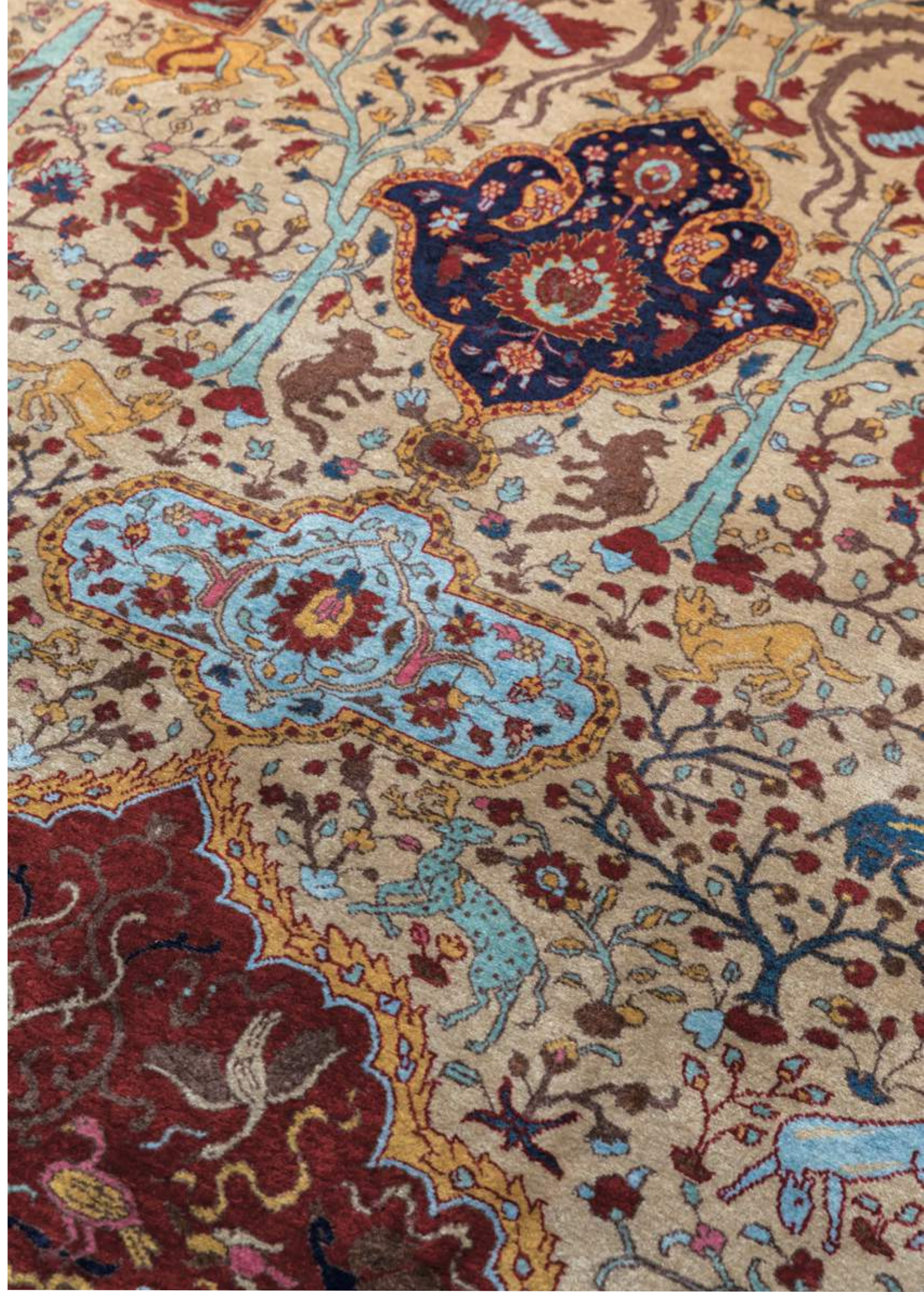
www.miricollection.com

www.sfini.com



Soleymanieh Fini

イラスト：たけもとあかる





www.miricollection.com



Soleymanieh Favi

